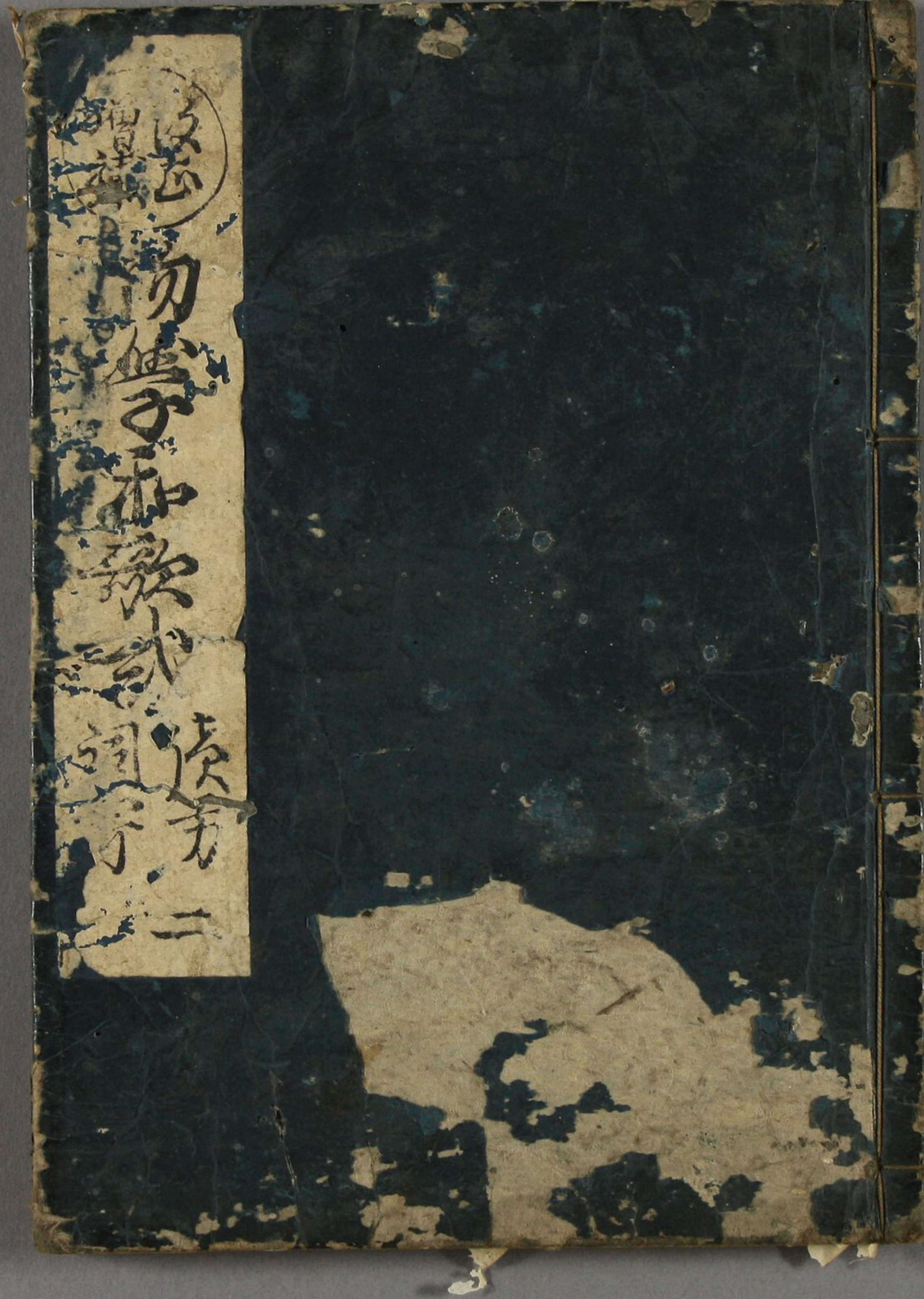
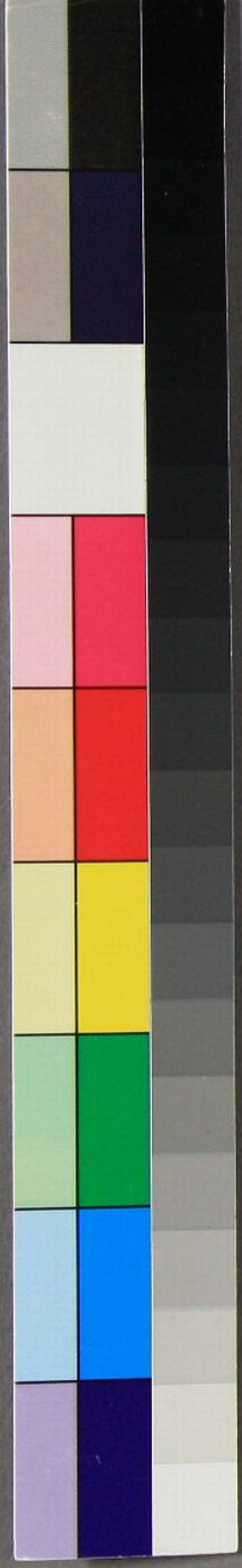






卷二

題王叔微不食家之事

[illegible]

震

分別もどーと云ふ乃初元び乃初表、
方乃初表か
ともよと又ハそめつらなること一そややくませても決て
いつる目氣ものどうゆ成、
何入持もせとんせれく、
成後り
そのゆにをひ乃雪も成はさうかなと決へーいといひ
ものどうゆ成すところお熱くそうありしゆ成、
何ぬ
んがやあや

一治政二年の憲法公布
 あつたは、
 憲法公布の
 一治政二年の憲法公布
 あつたは、
 憲法公布の

爲

いふふづいれどやうきふづがれど大ういあへてえ
てすいれどやうきふづがれど大ういあへてえ
いふふづいれどやうきふづがれど大ういあへてえ

ハ雲出抄云云乃ハ梅ノことナリ物ノ梅ノ事ト云フモ云フモ
ハカクハハ竹ノことナリ源氏ノ事ナリ

いふれい花みさうふき乃さうとふて祢うとハ努ぬ
梅みさうふき乃とふれと祢うふハせぬ

とせ乃朝波さしつるふありあづこ音よりどつる答乃ゆも
ふもとどづる花よりつるいふもあつる樹くしあやどつる竹よ
とくみ竹は秘くつる黒たんとくなどこ

正月初子の日世ふいぞく小松と引てなまうつゝてふ年と
らまう年代と祝ひニ茶乃ともうふ千世とりのうう一れと
よむく又い雲月とててりうれとおおぐ

一八雲抄云子月無松奉乳季難之云云げん子月乃乳子
は子月とがり強てねいふねいあゝとて松と強へーとて

子同

ふせの廻り行くのうた代二葉の縁とさへなる
とて七日のまゝとて七種のあまの葉とてさへあめりけのよとて

のへてこれと食されたりけりやすいどとぞぐりー荆
 楚歳時記といふ物よもいり上た全目かきとていり
 とていり中たより全目かきとて老ととていり
 といひていふ書よりいりていりていりていり
 神ありていりていりていりていりていり
 といりていりていりていりていりていり

ふせ乃約つひめさうねどまよつひやぞら折ひれてけむ
づめとくもぬむぐこを初るべづるかすかあの神ふ
あはれめ雪のちと結つひなほどあらうー

さしふる露は素ともころぬうーといひ素風ゆとり一歩も
わづびひもぶとも又ハさ海原の露の衣素さじいーと
も衣ささうさ抱え好ろかなとお熟し

ふせ乃知流もあへんか六雲池乃水あまふ六雲がよふの
春ともらふわふとこ

消滅する雪といふ又今よりある雪といふ所の所弄もありと
 あり程乃雪を世とてこれより雪を消滅するをねめ雪なり
 は茶乃下りといふとも又鹿乃下りといふとも
 目梨乃下りといふとねとね

よせお初まりて妙ふも妙ふむきゆらふのそくの
こつれあとのさなとわうをなごし
残雪はあけくじ春雪といふは今かつめい雪と多
ふあり

ふせの初とれとも知らぬ、春のなきて、空を乃び、
かれどこもぬあともうり、あふにぞこ
書ぬかともあひうとよらひ、きうさあひよこびる
さうとやう

三賢秘訣近著凡神
 手外乃救物等よしなり又侍氣おひやうとてむかへ
 眼前の事氣かうねば詮ありといふも目前の風を
 りづしきおひやくさざりて他一それもたすそ右
 そとよむはこのまがれとぞうらうじしあな
 がれば花乃ちもあひやつともは落れともよびゆ
 くるくろどむ乃歌こそこころなどよむハ衣の衣
 あるをこれ走るなりとへ流お押はしてよりとむ
 とよむおはす月よんととて一ほそめてくつらんそと
 なだき金中てりうゑ妙とまひいとて去らぬ人ん
 乃うろくようといひあるいはくぬの清とみて花とこ
 つの白きうろくを根とてはむりとこどりおもれく白
 ひくつれもわれぬえて木の下に交結と目とれく
 こひ初とーうまつくさねも花あれば入日けうとこ
 人もこひとてくれとお知し程花乃歌かなとてく

影よりうけてのく其よりむさあるづーととんバ
侍たはきのめりうも様とかなうて暖ぬ目敷とてと寄
乃由きとたあすうて暖ぬ目敷とてと寄
ー乃たよまはすう地といひなづー白雪と花とて
もろりたるる振とてのけりあうぬ路まをりして
か入ないういそぬ雲もれくあすもあらぬゆゑを
つくともお花とてあづーあうりきとてとて
るともいひむ入口の敷とていひ白ひくぬを
むるんとくあまゆとてうてはうてうてあ路とてとれ
ていふん又あま本の中よりあ乃日のくるとて
なぞとて花とていひはあまゆとてとてとてとて
ともいふよりて人とてうてむるるるるるるるる
ら人もとて花乃あまゆとてとてとてとて又年ま
れなり人もとて花乃あまゆとてとてとてとて又
とてとて人のうとてとてとてとてとてとてとて

[illegible]

名乃御ふつう衣也とてひらきかきとて
 山形松陰家根又海老子もふあり夕日ふきく
 ねあふもゆりうといひ山形てととも松乃あてとて

も又かく穴の彩は修りともいふ其外せう衣のま
 よまゝの妹があらうものゝまゝがふたと皆おのゝといふ
 うさやの浦まゝあらうといふていし
 ふせの宛下てる書のおくられなみおのかりぞのこ
 夕日まゝふもねのうの風本まゝさかど
 ふがこと後まゝれり書とまねともいふわうと
 水まゝまゝの底まゝうつら彩とて波の底もまゝ
 とがひまづえは波うたてまゝまゝといひまゝと
 物とて水まゝまゝといひ井まゝの山吹まゝれは越もかり
 まゝのまゝまゝともいふれどおとし川まゝ地のまゝ
 庭乃まゝまゝまゝまゝまゝといふまゝまゝ
 まゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ
 升まゝのまゝのまゝまゝまゝまゝまゝまゝ
 まゝの宛いゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ
 まゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ
 まゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ

升平の玉川の名をきくと山陰の名所と
せしめ知いともふふ公曾候白念友玉川
名所とせし玉川と云ふ
若かりしをきくと和歌山と云ふと云ふ

より白髪と候る事なり又腎一配よりあり若し
りて岐をさすといふは若のち十九八九の岐は入るこ
たつ^{なつか}並んで花乃咲かすひらき又花乃重む
と云々多きもさてもなりたる表乃がどりあは
るばる又表乃がどりいつられど若の咲く
とてなくさじゆんといひ松よりうそへハ松乃ことりや
花よりれて松ともよりぬんといひ又おもちとせの表
どろどろうとともよりうおむ又まは咲くとよ
とよりおもありとむつとかなればゆるりれども
りや

よき乃嗣から、暖うなびく、申あひひきとてし
ささ松地を枝といふよりて、くらうささらとてあ
おしめとも書乃名、妙もなまされめうんといひ、又なま
乃名妙も今いこうとてぞて、おひんともいひ、鹿り
のころ有明の月、ま書乃名、ぞりとも、ち花八福、まう、ち

卷之五

多へるもみくへとも梅娘の書のかゝりもいふなりとや
 などいへるおきき
 乙女乃親妹またるを雲舟入るお乃より落くなりけり
 廣られてゆきふかきむらもとあけぬけふも知ぬ
 お乃志づかふのことも有明乃月満る自叙

妙書

二九

三井海りのをいふ書巻乃歌ふ三井元日のをいふれんと
もふと又三井海りのをいふもふとくは三井元日の
歌ふと三井海りのをいふとくは三井元日のをいふ
ていふ

こそ乃初なるめとかなの日はぞりたれ入おの瘡
 美のぬとよひよハ或は樹とそへ樹とそへてもよむこと
 とれく吹くる風乃くあやうとひひ又美風乃神よ吹
 こそものども初なる風もまた初なるをねえし

ふせの羽ハ吹きつゝく花みよをそよまば白ひくらなぞこ

去風

孝

善の世乃旂也

善のゆゑに事なり衆のけしきをば舟とてさひく略する
あまの言ふといひるものもさうなりぬれども其外きの
汝の意をさぐらなくあるべし

書

夏

之夢

卯辰朔日乃乞ともふと又二月三日辰乃乞と大やうみ
もふとゞー又のそま乃乞は新樹交衣とふむもお
無し又卯辰ハ社まつる月なればうふよりハ四方乃社
社は樹とまうともいハ社まつる卯辰れうへんとも
うと或ハちうとまふ乃社まといーうふとて乞とも清
うせ乃朔との方乃去社まつる月交衣とてふふとゞ
うと衣かむとて

矢衣

卯辰朔日妻乃衣之_ニ衣_ヲひ_テ之_ノ衣_ヲぬき_テあ_ラふ_ニ

とされし意のよめれなむりとてひ花の白いの
ちやう種もぬぎうて今更衣乃なまりとてふ也
ひとの衣かれもさかなと漂り物ドて乃歌ハナリ
ひうは花と目され花よりへおとまゝとてうと漂せ
かきとて更衣乃歌かりあつひとの神と貴殿
ものいといひこもるひ深の神とありてぬぎう
ちうさんどあらね無しとてうと漂とひかり下た
み月くく白き衣なりあつんし燈の神衣といひと乃
衣乃うとさんし花深とい花乃香みそとて衣し
又いさうとみそめとて衣し
よ世乃羽ぬぎうあつらうあつらうとて被せじと
ぬぎうとていひてふとて

新樹

ま乃始の歌く新樹とハ基くれが本乃青葉まぬり
をいこれとる本まといのあ葉まといのうバのひろ
どりゆんしきのまづとといふもなまよりハ流

[illegible]

卯苑

疎荒といふは同一

卯乃乃いづれより嘆物と卯乃ハ何と物なれば大
 卯乃まづ人雪まこなせりあり雪止ハはまよりさうせり
 布乃まづふ山に花などふりあり卯乃乃花といふ
 卯乃と卯乃まづさうくちと乃卯乃ハあつさうのむ
 くくといふ卯乃のぬのなと卯乃本嘆卯乃本垣卯乃の
 花なども泣りつるふ乃玉川卯乃の名うさ名は
 いせの卯乃花乃まづふこのさうくさへまづふさ
 布乃まづふ嘆物と乃玉川名はれともむなまとい

葵

夢ハ何れも夢の如きものなりとて日ハ上下とて日ごと氏人ハ夢ハ
 夢ハ何れも夢の如きものなりとて日ハ上下とて日ごと氏人ハ夢ハ
 夢ハ何れも夢の如きものなりとて日ハ上下とて日ごと氏人ハ夢ハ

鳴らうと鳴百々五鳴とらう 夕ぐれの夢の聲一と急
 鳴とそくちあらとそ乃夢有師乃夢我々の一戸初者
 かのうとそぬ外むの陰は鳴花立むと鳴とぞの左夢
 かたが鳴母のかた村毎のそ

三むはとこのくらやうなれう種乃きうう今れあ
 とくくひーとまのぶうとやういふく乃とと立
 花乃とこのまかりうてととがやうとまかすは
 とりあつうーあま王命こころみなれなうくとやとあめ
 くあめさう極と三りとあめてうとらびて呼よ召めせ
 みとやとととととせまふくれさせかりあうら
 と物んさく立むは白ひとらううき極まうととと
 うりうう種乃種み白ひとらうてはむー乃夏
 の名おとととひ又むうの人の種乃うまうと朝吹
 けもあひーととーなととおとく朝あばはせんなうあり
 せうあふとととあふなうとととと川がととととととととと

早苗

五者乃此の^二田^一より^二人^一と^二次^一にお^二慈^一し早苗ハ^一
^二田^一とて^二な^一ぐ^二なり^一セハ^二あ^一々^二ハ^一早苗を^二め^一と
^二と^一めいそ^二と^一れな^二と^一う^二又^一ハ^二青^一ぬれ^二つ^一そ^二
^二と^一も^二さ^一な^二く^一な^二れ^一ば^二い^一そ^二と^一と^二れ^一ど^二乃^一目^二も^一く^二れ^一
^二る^一又^二ハ^一世^二ゆ^一ら^二め^一君^二乃^一實^二を^一あ^二ね^一れ^二ハ^一民^二の^一志^二
^二と^一も^二く^一ゆ^二と^一く^二耕^一佐^二よ^一う^二あ^一う^二と^一の^二田^一の^二苗^一
^二あり^一と^二も^一の^二苗^一乃^二な^一う^二と^一事^二れ^一とい^二ハ^一田^二子^一
^二あり^一と^二も^一ぬ^二れ^一て^二と^一と^二れ^一と^二も^一い^二じ^一ら^二乃^一あ^二
^二つ^一ハ^二じ^一ら^二ハ^一と^二も^一く^二と^一つ^二後^一と^二う^一て^二と^一あ^二
^二う^一り^二ハ^一と^二も^一く^二と^一う^二と^一め^二れ^一の^二と^一と^二と^一と^二ハ^一種^二れ

水鷄

四世

乳母とも渡り係氏物持はもくわれ乃打鳴るうあ
あにまどてうとそくきふ似れハさう門ざいて入ぬ
かろんとともうし墨とふくくとちおもおもどろた
くとも夏がどろとかなともうろ又くわれ垣
とくゆうこふうきてもよりけぬれとほ金きり
うせ乃初くく思ふとい乃戸ぶの戸ハやのと
とりハうつちやそ乃江中へくじろつ物く又ハ井上決
るちもあれどちくさ中乃公多ーく人乃鹿
ととんとく此乃本座よりお出でくやううて
松とりのとれとびづ一の松といふ松とうちくとみ
物と火串といふ火の類とつきくあ鹿のそへ火類
うつきてよりきて月とあはれハ火乃新よ鹿
の目れきくといひうてとゆうとちうてくうそ
いつくこれとちあはれ鹿といふうてなすようを
くあもあはれ種い明ぞあぢあかとくあはれ鹿

乃月とて会ふ事とちんそくを乃はなれど
ねもせぬ程あつたんとせていありとの
とよびあう人乃す月とあつてうらる鹿とあハ
れも又うり人の鹿のこゝろ入て殺せのつても
ぬえとてよびせあとのひつくと程じとも後の世
乃やしらといせんかといふとあらう又ハ家乃本
の乃乃とりーの走とあるあれ早よりぐん成ハたり
とて程よく明さるる一々乃氣とあらう
とせの程とりといひてふさくらうがぞとて
鹿さけとてかう人か川さやとてあらう也
松川といとも川と流ともありまのよ乃やとて
とてハおめハせと舟一のつて一人持とて一人は
とてさうとなつてつて乃やア魚乃とゆと
程をあつたら入れバどのくまどとて魚とて
程乃くびつてつていといふ川とてさう一の

[illegible]

管

二月朝乃なりといひ朝はくりなり又のしら
 さぬ糖といひこれるを黒みなりれとて
 氣といひ下なりなりとてこのいひより
 一升ぬるなりと糖のなりとてなりとて
 夢いふなりとてなりとてなりとて
 世の朝なりなりなりなりなりなりなり
 のなりなりなりなりなりなりなりなり
 腐^{くさ}なりなりなりなりなりなりなりなり
 てもいひなりなりなりなりなりなりなり
 なるなりなりなりなりなりなりなりなり
 又なりなりなりなりなりなりなりなり
 といひなりなりなりなりなりなりなりなり
 といひなりなりなりなりなりなりなりなり
 なりなりなりなりなりなりなりなりなり
 氣と冷とてなりなりなりなりなりなりなり

蜂

あられどあるひに思ふとてうひくると火の影より草
 葉のありとてうひてふあり又あるは雲よりとて雲
 なくともありはむりて雲より車胤とて人あり雪文成
 好むともあるより火乃能たれは夏に雲と多あり
 りて其光は書とて冬に雪とありて雪の光は書
 とてにとてあるは雲とて雲に我の雪文とて今も
 ふもあはぬとてありがふありとてふも雲の影
 とてうひていふ

子什三

三 八 倭 氏 物 終 々 之 終 々

ふのぐさ

るにふくむあり

冬立

卷九

ぐら乃安

子口牙式二

北

扇

あふさひもあくなじて深き風とまゐるる
 ちやと或はあふさひ風のあは深きまゐるる秋
 舞よりうとうとうふんとあひりとあふさひと雪の
 りまうへ又ハあふさひと

泉

冰室

うせ乃親てあきくぬ海へかうと云ふまふさき
 ひひろ八八の本がどきどきうて目梨のりふあふあかぐ
 らのさうなうととつらひさ中へ藤のやうな花
 あううは水とさうせきて冬のおつどなりと多く入て
 しろ乃うとさうとて六舟報ひさうとてとて
 して藤の中へさうとてとてひのおのりふさうとて
 ぬ八かきとせあふあれいさうとてふいさうとて
 ぐひさうとてあもさうとてうりふさうとていさうとて
 ういさうとてあむろのあうとてとて乃乃ふの名は
 うせの親ふあふ海へさうとてうれあうとて
 うつとて乃乃親へさうとてとてとてとてとてとて

納須

以校

とひて暑氣とやいふらんお熱し或はあひまぶら
るも忘れて涼さあがりある秋やうとうともい
松陰乃忠井のあひまは松乃凡々候そひて神さ
ゆづりなりとも又あがり水乃とてやむとてぬ
先ず涼を心なにとり
うせの初むと云ふなりとと涼さ底さうとせらる
納涼ハルとて涼さ本底あてと云れ或はあがり
清水とてふん或は山川の涼さ波よとてせ暑氣
とてひ或はあひまひて涼氣とりめたとするん
ろ。あつとて家乃ろあめへ納涼とて芝あつと
とハ芝乃とてあてとてむいてげれも納涼乃あつたり
ふせの初むとてあつ秋ハ秋やうとてあつとて
秋とてあつとてあつとてあつとてあつとて
六井後荒和後各就後たもつとてあつとてあつ
九井月川よりぞ後してあつ災難とのぞとてあつ

新字括雪式

夏の田旱苗より氣難又今之口よりとてせ
どしとれと書す

〔名〕水乃清き神又ハ河水と云ひて物原と云ふ又ハ
猪川乃神とも云ふ

復然

又牛馬猪の糞などしててもその
いとむとひてうむべし

其のとうひ六時鳥くあれを外務省まであや
 の新のるゑとひびてようどー言ひううな
 どの季とりうりるゑあゝ

其與

夏衣ハ夏の始なりバ夏衣の心ともうびーせこのハ衣
 ひとの衣なまともあり又ハ衣と云むもさし細
 奥といふハ肘より膝までをさうあれと云ふ又ハ弁む乃と
 うりたりとも極のむひと袖もあれ其内とかがち松陰
 乃清水とひとひたしと云ふても奥のあらうと云ふ

雙龍

其友

年苗より前も後より世といひ民乃声も時をわて
 ふさひひとも乃欠くともそ一なまゝといひ又ハ
 松林乃こもりみちとよせてもよも又ハけをむる所
 はを忍なるとさ千年とらざるわれどあづべー
 其声みちとささとも明るゝわれのこゝとと松林
 あり乃声かとも後へー

